

科目Ⅳ スピリチュアルな痛みと叫び

痛みはさまざまな形で存在しその痛みの質はそれぞれ違っている。身体的、知的、あるいは社会的な痛みは弁えやすいのに対して、心理的や心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みは把握し難くそのケアは微妙な行為である。そのためには心・霊・魂に基づく生き方の体験が必要不可欠な条件である。自己の存在そのもの、人生の意義や意味、人生に伴う苦痛・疾病や死、天職（ライフワーク）や使命感、自己の価値と価値観、社会観や歴史観などから生じてくる困難や苦痛は多様である。日常生活ではこうした痛みが意識に登らないことが多いが、重い病気に罹ったり、病が終末期になったりした時には、そのような痛みを感じることが多いだろう。

ねらいは

- ・痛みとその叫びの意識化
 - ・痛み自体の存在とその意味を知ること
 - ・多様な痛みの区別ができること
 - ・自他の心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの主な原因の把握
 - ・心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの取り扱いと対面する態度
 - ・痛みコントロールと癒しの区別を把握すること
- である。

概要

1. 痛みとその叫びの意識化
2. 痛み自体の存在とその意味を知ること
3. 多様な痛みの区別ができること
4. 自他の心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの主な原因の把握
5. 心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの取り扱いと対面する態度
6. 痛みコントロールと癒しの区別を把握すること
7. スピリチュアルアセスメント